

白根北中学校
学校だより

教育目標
自立 友愛 勇気



連休の思い出

【1週目の日曜日】

その昔、わが家には、自家用車がありませんでした。家族の誰も運転免許を持っていないので当然です。遠出の交通手段はもっぱら電車やバス、そして徒歩か自転車でした。

「町内で車がないのはうちだけだ」といつも祖母が自慢(?)していました。車がないのが普通だと思えば意外と苦にならないもので、休日に車で出かけたと思うことはありませんでした。

私が小学校に入学する前、5月の連休は、2週間かけて味噌づくりをするのが恒例でした。遠くへ遊びに連れて行ってもらった記憶はないものの、1年に1度の非日常感は、十分なワクワク感がありました。

① 朝早く、父が近所からリヤカーを借りてきます。

② リヤカーを引いて、大きな桶と、大きな釜を借りてきます。

③ 祖父が釜いっぱい水と豆を入れ、薪で火を焚いて煮込みます。

④ 柔らかくなった大量の豆を祖父と父が交代で手動式のミキサーですりつぶします。釜の中に残った煮汁は捨てないで大切にしておきます。

⑤ すりつぶされた豆を祖母と母がバレーボール大の玉にして丸めます。(多分、30〜50個)



煮立っていた豆の玉は、とっても熱いので走って運びます。この日は、ここで終わり。廊下に並べた豆の玉は日に日に固くなり表面にはカビが生えてきます。

【2週目の日曜日】

朝から大勢の親戚が集まります。⑦ 並べてあるたくさんの豆の玉についたカビを水洗いします。

⑧ 固くなった豆の玉を大きな桶の中で、全員で包丁で刻みます。

⑨ 豆を煮て残った煮汁と大量の塩、麴を入れてよく混ぜます。

このあたりでようやく味噌らしくなってきました。

⑩ 大きな樽に移しかえ覆いをして寝かせます。



いませんが、概ね、このような流れでした。連休になると思い浮かべるこの光景は、いつも私に中国の古い言葉を思い出させます。

聞いたことは忘れる

見たことは覚える

やったことは分かる

当時の私は、「どうしてつぶした豆にすぐ塩を入れないのだろう」「どうしてできた味噌をまた樽の中で寝かせるのだろう」と不思議に思っていました。大人になってようやく発酵や熟成のための「時間」が大切なのだと知りました。

豆を煮ている時の香り、豆の玉を運ぶ時の手の平に伝わる熱さ、久しぶりに会う親戚の人たちの笑顔や会話。五感で感じたすべてが鮮明な記憶として今も脳裏に焼き付いています。この連休、皆さんも体中で何か体験してみてもいいのでは？

◆ PTA全体役員会 ◆

4月22日（火）の夜、今年度のPTA全体役員会が行われました。詳細は来月の総会の折に説明することになりますが、今年度より活動方針等を大きく見直して取り組むこととなります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



◆ 授業参観、PTA総会 ◆

来月5月2日（金）は授業参観、PTA総会が行われます。（右下）新年度が始まってから間もなく1か月。ぜひ、進級したお子さんの様子をご参観ください。

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 期 日 | 令和7年5月2日（金） |
| 2 | 日 程 | 授業参観 14：00～14：45
PTA総会 15：00～15：30
学年PTA 15：40～16：10 |
| 3 | その他 | 内履き（スリッパ等）を持参してください。なるべく乗り合わせてお越しください。 |

◆ 後援会理事会 ◆

白根北中学校には、令和3年春に教育活動を支援してくださる後援会が発足しました。以来、地域から毎年協力が寄せられ、生徒たちのために使わせていただいています。昨年度は、ワンタッチテントを購入させていただき体育祭等で役立ちました。



4月18日（金）の夜、今年度の

後援会の理事会が行われました。5月21日（水）には自治会長の皆様からお集まりいただき、総会が行われる予定です。

◆教職員も研修中②（ミニ）◆

4月23日（木）、石川先生から、これまでの教職経験等を踏まえて約15分、「ミニ研修」をしてもらいました。テーマは「学級経営と人間関係作り」です。



放課後の限られた時間でしたが学級経営について私たちも改めて見直すことができました。

◆ 銀河鉄道を見た ◆

先日、夜の、ちよつとした用で外を歩いている時、ふと空を見上げると15個以上の光が一直線になって動く様子が目に映りました。とてもきれいで幻想的だったので、UFOよりも「銀河鉄道」を思い浮かべました。すぐにスマホを向けましたが被写体は動いている上に、私の方は手が震えており満足な映像は収められませんでした。調べるとスターリンク衛星という人工衛星のようで他にも見たという人の動画が投稿されていました。目撃するチャンスはこれからもあるようです。連休が始まります。怪我や事故に気を付けて過ごしてください。



令和7年4月25日（金）

令和7年度 第2号

文責 校長 山口 靖博